

改善方策実施計画書

担当部局：国際関係学部

責任者：国際関係学部長

幹事：国際関係学部事務室

2011 年 3 月 31 日

認証評価指摘事項	全学部【総評】教育・研究上の目的は、学科および専攻ごとに、学則に定められているものの、学部および研究科の目的は定められていない。 【総評】理念、目的、教育目標は大学案内やホームページなどで学生や受験生に周知されているが、周知の程度は学部、研究科により差が見受けられる。とりわけ在学生には『履修の手引き』への掲載やガイダンスなどを通じて、一層の周知を図ることが期待される。					
点検・評価問題点	学部の理念カリキュラムの特色を十分理解しないまま入学してくる場合が見られる。					
改善方策	1-6-1 学部の理念、カリキュラムの特色を受験前から入学後にも十分理解させるための機会を設ける。すでに入学前説明会を実施し、入学後はチュートリアル授業で実施しているが、毎年継続する必要がある。新入生ガイダンスで説明するほか、別途に学部新入生オリエンテーションを開催して周知させる。学部ガイドブック（履修の手引き）にも理念目的の骨子を記載する。					
計画	前期		中期		後期	
	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
	→	→				
2010 年度実施計画			達成時期	2010 年度取り組み結果		
教務委員会で検討 教授会で承認			2010. 10	A 完全に達成	○	B 達成半ば
			2011. 2	(B または C の理由) 認証評価指摘事項については、2011 年 1 月 18 日第 10 回教授会にて学部の教育研究上の目的（別紙、改善方策経過報告書・現状の説明、参照）を提案して承認された。 学部の理念目的・カリキュラムの特色については、入学前説明会に替え、また新入生ガイダンスとは別に、新入生オリエンテーションを4月中旬に開催して、その際チュートリアル担当の各教員により指導する。来年度の学部ガイドブック（履修の手引き）に理念目的の骨子を記載した。		
2011 年度実施計画			達成時期	2011 年度取り組み結果		
教務委員会で検討 教授会で承認 以後、毎年ガイダンス時などの機会に着実に周知の努力を継続。			2011. 10	○	A 完全に達成	B 達成半ば
			2012. 2	(B または C の理由)		
2012 年度実施計画			達成時期	2012 年度取り組み結果		
				A 完全に達成		B 達成半ば
				(B または C の理由)		
2013 年度実施計画			達成時期	2013 年度取り組み結果		
				A 完全に達成		B 達成半ば
				(B または C の理由)		
2014 年度実施計画			達成時期	2014 年度取り組み結果		
				A 完全に達成		B 達成半ば
				(B または C の理由)		
2015 年度実施計画			達成時期	2015 年度取り組み結果		
				A 完全に達成		B 達成半ば
				(B または C の理由)		

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	全学部【総評】教育・研究上の目的は、学科および専攻ごとに、学則に定められているものの、学部および研究科の目的は定められていない。 【総評】理念、目的、教育目標は大学案内やホームページなどで学生や受験生に周知されているが、周知の程度は学部、研究科により差が見受けられる。とりわけ在学生には『履修の手引き』への掲載やガイダンスなどを通じて、一層の周知を図ることが期待される。
点検・評価問題点	学部の理念、カリキュラムの特色を十分理解しないまま入学してくる場合が見られる。
改善方策	1-6-1 学部の理念、カリキュラムの特色を受験前から入学後にも十分理解させるための機会を設ける。すでに入学前説明会を実施し、入学後はチュートリアル授業で実施しているが、毎年継続する必要がある。 新入生ガイダンスで説明するほか、別途に学部新入生オリエンテーションを開催して周知させる。学部ガイドブック（履修の手引き）にも理念目的の骨子を記載する。

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

国際関係学部は教育研究上の目的を明確化した（平成 23 年 1 月 18 日第 10 回教授会承認）。

「国際関係学部はアジア諸地域を中心に、国際政治・経済・社会の課題を考え、また豊かな伝統と多様性に富むアジア諸地域の言語・文化・歴史を学ぶことを通して、異文化を理解する心を育てるとともに、国際社会に貢献できる人材の育成を目指している。」

上記教育研究上の理念目的について平成 23 年度は、学部新入生オリエンテーションを 5 月 14 日に実施してチュートリアルクラス別に指導する。担当する教員間の共通理解を確保するため、今後もチュートリアル授業の中で指導を継続する。来年度の学部ガイドブック（履修の手引き）に理念目的の骨子を記載した。学部ホームページにおいても該当項目を更新する予定である。

	計画は順調に進捗しており評価できる。
--	--------------------

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

学部の目的理念・カリキュラムの特色について、2011 年度の在学生ガイダンス、および新入生ガイダンスで説明したほか、別途に学部新入生オリエンテーションの際にも周知に努めた。学部ガイドブック（履修の手引き）の内表紙、および学部ホームページにも学部の理念目的の骨子を記載してある。今後も毎年このような周知の努力を継続する。

なお、学則の改正は行っていない。

所見	学部の理念・目的・教育目標がさまざまな媒体を通じて周知されていることは大いに評価できます。学部の目的が早急に学則に明記されることを期待します。
----	---

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

改訂された学部・学科のカリキュラム・ポリシー等についてホームページ、大学案内、ガイダンス等にて明記・周知した。

参考：国際関係学部カリキュラム・ポリシー

アジアを中心とした国際関係・国際文化に関する学際的専門教育と言語教育を実施し、広い視野に立った異文化理解の感覚と言語能力を有する人材を育成するため、以下のような特色を持った教育課程を編成・実施します。

- 1 年次のチュートリアル、2・3 年次の専門演習、4 年次の卒業論文演習を必修とし、問題意識をもって研究する姿勢と、報告・討論の技術を修得し、卒業研究をまとめる。
- 1 年次から英語及びアジア地域言語の一つを必修とし、外国語によるコミュニケーション能力を修得する。また、TOEIC・実用英語検定、及び中国語検定試験・「ハングル」能力検定試験による単位認定制度を設けている。
- 政治・経済・社会・歴史・芸術・文化の各分野を広く学際的に学ぶとともに、専門とする地域を一つ選択し、深い知識を修得する。

現地研修、長期・短期の海外留学制度を設け、奨学金や単位の認定などにより、国際交流を奨励する。

参考：国際関係学科カリキュラム・ポリシー

アジアを中心とした国際関係に関する学際的専門教育と言語教育を実施し、広い視野に立った異文化理解の感覚と言語能力を有する人材を育成するため、以下のような特色を持った教育課程を編成・実施します。

1. 1年次のチュートリアル、2・3年次の専門演習、4年次の卒業論文演習を必修とし、問題意識をもって研究する姿勢と、報告・討論の技術を修得し、卒業研究をまとめる。
2. 1年次から英語及びアジア地域言語の一つを必修とし、外国語によるコミュニケーション能力を修得する。また、TOEIC・実用英語検定、及び中国語検定試験・「ハングル」能力検定試験による単位認定制度を設けている。
3. 政治・経済・社会の各分野を広く学際的に学ぶとともに、専門とする地域を一つ選択し、深い知識を修得する。現地研修、長期・短期の海外留学制度を設け、奨学金や単位の認定などにより、国際交流を奨励する。

参考：国際文化学科カリキュラム・ポリシー

アジアを中心とした国際文化に関する学際的専門教育と言語教育を実施し、広い視野に立った異文化理解の感覚と言語能力を有する人材を育成するため、以下のような特色を持った教育課程を編成・実施します。

1. 1年次のチュートリアル、2・3年次の専門演習、4年次の卒業論文演習を必修とし、問題意識をもって研究する姿勢と、報告・討論の技術を修得し、卒業研究をまとめる。
2. 1年次から英語及びアジア地域言語の一つを必修とし、外国語によるコミュニケーション能力を修得する。また、TOEIC・実用英語検定、及び中国語検定試験・「ハングル」能力検定試験による単位認定制度を設けている。
3. 歴史・芸術・文化の各分野を広く学際的に学ぶとともに、専門とする地域を一つ選択させ、深い知識を修得する。現地研修、長期・短期の海外留学制度を設け、奨学金や単位の認定などにより、国際交流を奨励する。

所見	認証評価で指摘されたことは、（１）学部の研究上の目的が学則に定められていない、（２）理念・目的・教育目標の周知、の２点です。（１）については、平成２３年１月１８日第１０回教授会で承認された国際関係学部の研究上の目的が、早急に学則に明記されることが望まれます。（２）については、どの程度周知されているか、今後、何らかの方法により検証が必要でしょう。
----	---